

製品名: Hic-5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12015**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	

抗原情報

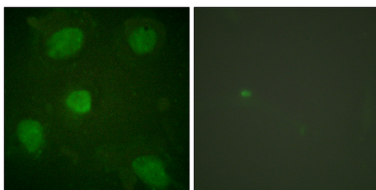
遺伝子名	TGFB111 TGFB111; ARA55; Transforming growth factor beta-1-induced transcript 1 protein; Androgen receptor coactivator 55 kDa protein; Androgen receptor-associated protein of 55 kDa; Hydrogen peroxide-inducible clone 5 protein; Hic-5
別名	
遺伝子 ID	7041.0
SwissProt ID	O43294
免疫原	抗血清はヒト Hic-5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 31-80

背景

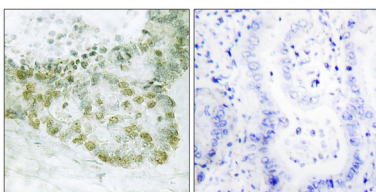
形質転換成長因子ベータ 1 誘導転写産物 1 (TGFBI1) ホモサピエンスこの遺伝子は、アンドロゲンによって活性化され、男性の性分化において重要な役割を果たす転写因子であるアンドロゲン受容体のコアクチベーターをコードしています。コードされているタンパク質はアンドロゲン受容体の活性を制御していると考えられており、前立腺がんの治療において役割を果たす可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2009 年 9 月],ドメイン: LD (ロイシンおよびアスパラギン酸に富む) モチーフ 3 は、GIT1 との相互作用を媒介し、核外輸送シグナルとして機能します。、ドメイン: LIM 亜鉛結合ドメインは、グルココルチコイド受容体の共活性化および AR、CRIP2、ILK、LIMS1、NR3C1、PPARG、TCF3、TCF7L2、SLC6A3、および SMAD3 との相互作用を媒介します。LIM 亜鉛結合 2 ドメインと LIM 亜鉛結合 3 ドメインは、接着斑とアクチンストレスファイバーへのターゲティングを媒介します。LIM 亜鉛結合 3 ドメインと LIM 亜鉛結合 4 ドメインは、TRAF4 および MAPK15 との相互作用を媒介します。LIM 亜鉛結合 4 ドメインは、HSPB1 との相互作用、ホモオリゴマー化、および核マトリクスへのターゲティングを媒介します。LIM 亜鉛結合 3 ドメインは PTPN12 との相互作用を媒介します。機能: 接着斑複合体および核内で複数のタンパク質間相互作用を調整する分子アダプターとして機能します。さまざまな細胞内シグナル伝達モジュールを細胞膜受容体に結び付け、Wnt および TGFβ シグナル伝達経路を制御します。また、SLC6A3 および SLC6A4 の細胞膜へのターゲティングを制御し、それらの活性を制御している可能性があります。核内では、グルココルチコイド、アンドロゲン、ミネラルコルチコイド、およびプロゲステロン受容体の転写活性を制御する核内受容体コアクチベーターとして機能する。細胞の成長、増殖、遊走、分化、および老化のプロセスにおいて役割を果たす可能性がある。亜鉛依存性 DNA 結合活性を有する可能性がある。誘導: TNF-α および過酸化水素によってアップレギュレーションされる。PTM: ギナドトロピン放出ホルモン活性化 SRC によってリン酸化される。類似性: パキシリンファミリーに属する。類似性: 4 つの LIM 亜鉛結合ドメインを含む。細胞内局在: アクチン細胞骨格に関連し、ストレスファイバーと共局在する。サブユニット: ホモオリゴマー。CRIP2、HSPB1、ILK、LIMS1、LIMS2、NCK2、NUDT16L1、PAK、PPARG、PTPN12、TCF3、TCF7L2、VCL と相互作用します。GIT1 および ARHGEF7 と複合体を形成します (相同性による)。リガンド依存的に AR/アンドロゲン受容体と相互作用します。CSK、LYN、MAPK15、NR3C1、PPARG、PTK2、PTK2B、SLC6A3、SLC6A4、SMAD3、SRC、タリンと相互作用します。組織特異性: 血小板、平滑筋、前立腺間質細胞に発現します (タンパク質レベル)。

研究分野

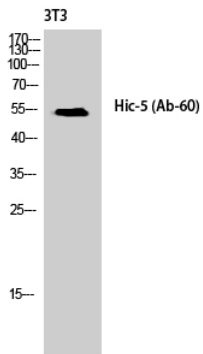
画像データ



Hic-5 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



Hic-5 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



1: 1000 に希釈した Hic-5 ポリクローナル抗体を用いた NIH-3T3 細胞のウェスタンブロット解析